令和２年度

# 研修集録

《第２８号》

秋田県立十和田高等学校

研究集録巻頭言

# チョーク・アンド・トークからの脱却

校　長　　渡　邉　政　徳

研究社の『リーダーズ英和辞典』によると、"chalk and talk" とは「板書と教師の話が中心の伝統的教授法」とある。世の東西を問わずこれは広く行き渡った指導法であったことがうかがえる。確かに、これは時間を多くかけずに多くの生徒に対して多くの知識を授けるのには適しているスタイルであったかもしれない。しかし、これは受動的な学習スタイルを生み、結果として知識が定着しづらく、実践でなかなか生かすことができないという弊害も生んでいる。

新学習指導要領では、どのように学ぶかということが重視され、主体的・対話的で深い学びへの転換、すなわちアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の重要性が説かれている。アクティブ・ラーニングは、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」とされ、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれ、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等の活動例が示されている。これらの活動によって生徒の認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成が図られるとされる。

アクティブ・ラーニングは様々な形態をとり得るが、それぞれがアウトプットの活動であることが注目される。アウトプットはインプット（知識等）を定着させるには非常に重要であると言われている。人間の脳は情報をいったん海馬に取り入れ、記憶は仮保存されるが、情報が何度も使われると脳がそれを重要なものと判断し、側頭葉の長期記憶にそれを移動する。アクティブ・ラーニングはその活動自体の意義とともに、アウトプットを行うことで学習内容が記憶に残りやすいことも重要であると言える。

授業では教師からの一方通行から是非とも脱却したいものである。先に例示された活動を含め、アウトプットの活動を取り入れたい。例えば、学習した内容を他人に教えたり､場面を設定して学習した内容を用いたりする活動などは取り入れやすいものだろう。授業のアクティブ化は、今導入が進められているＩＣＴの活用とともに、待ったなしの取組課題である。"chalk and talk" のままでは"talk and choke（窒息）"になりかねない。

令和２年度十和田高校　研修集録＜第２８号＞

目　次


巻頭言　校　長　渡　邉　政　徳

１．校外研修

教育センターＡ講座
「高等学校中堅教諭等資質向上研修講座　Ａ－２２」　藤　島　知　歩　1

教育センターＢ講座
「学校組織マネジメント研修講座　Ｂ－１０」　加　賀　誠　幸　2

その他の研修
「ＩＣＴベーシック講座」　櫻　庭　　洋　3
「ＩＣＴ活用推進リーダー研修会」　寺　田　尚　志　4

２．校内研修

授業研究会
学習指導案（数学Ｉ）　寺　田　尚　志　5
学習指導案（ビジネス基礎）　工　藤　由紀子　7
指導主事訪問全体会記録　9

ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニングの取り組み
岩　澤　利　哉　１０

ふるさと教育　学習指導案
国　語　科　齊　藤　恭　子　１２
公　民　科　岩　澤　利　哉　１３
数　学　科　寺　田・奥　山　１４
理　　科　櫻　庭　　洋　１５
保健体育科　神　居　恵　悟　１６
芸　術　科（美術）　中　山　　薫　１７
外国語　科　木　村　由　美　１８
家　庭　科　能　島　直　美　１９
商　業　科　工　藤　由紀子　２０

編集後記

# 中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)のまとめ

教諭　　藤島　知歩

## 1　秋田県総合教育センター中堅教諭等資質向上研修講座の目標と実施内容

【研修の目標】中堅教諭としての自覚や学校運営参画意識を高め、個々の能力、適性等に応じて必要な事項に関する資質の向上を図る。

| | |
|---|---|
| Ⅰ期<br>〈6/23（火）〉 | ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略<br>○学校の危機管理<br>○学校組織の一員として①－リーダーシップ－ |
| Ⅱ期<br>〈7/31（金）〉 | ※総合教育センターでの研修は中止。自校での校内研修となった。<br>○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進 |
| Ⅲ期<br>〈8/26（水）〉 | ○いじめの理解と対応<br>○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解 |
| Ⅳ期<br>〈10/15（木）〉 | ○教育活動全体を通じたキャリア教育<br>○学校全体で取り組む情報教育<br>○人間としての在り方生き方を考える道徳教育 |
| Ⅴ期<br>〈1/8（金）〉 | ※総合教育センターでの研修は中止。自校での校内研修となった。<br>○教育公務員の服務<br>○学校組織の一員として②－キャリアデザイン－<br>○これからの学校教育 |

## 2　秋田県総合教育センター中堅教諭等資質向上研修講座を振り返って

今回の研修では、これまで経験してきたことを自校や他校の先生方と共有し、自身の資質向上のために必要なことを学ぶことができた。

私は①「生徒全員が興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を育むような授業展開や補助教材・ＩＣＴ機器の活用方法」の研究や②「課題を抱えた生徒対応についての事例研究」を中心に、授業改善や教育相談の在り方について研究することを校内研修の目的・方針としていた。そのため、研修講座の中でもⅠ期やⅢ期、Ⅳ期の内容が特に印象深く、考えさせられた。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、ＩＣＴ機器を活用したリモート授業の在り方や課題提示の仕方は、急務の課題である。また、本年度は春に休校措置が取られ、課題を抱えた新入生の実態把握がしにくく、その生徒自身もうまく人間関係を築けずトラブルに発展することもあった。その対応をする中で、生徒の特性に着目することが多くあったが、特性をどのように捉えるべきか、苦慮することがあった。だからこそ研修講座Ⅲ期では、他校の事例をもとに自分の「認知」を見直すきっかけとなった。また、他校の生徒だからこそ積極的に情報収集をし、互いに対応策を話し合うこともできた。研修の中で使われた「インシデント・プロセス法」は具体的な対応策を個々人で考え、共有することができるため、生徒支援の会議などで実施できるよう、研究を深めていきたい。

また、ＩＣＴ機器を活用した授業改善については、まず自分自身が機器の利便性や機能について学ぶ必要があることを痛感した。来年度から生徒一人一人にタブレット端末が支給される上、教室には電子黒板も導入される。生徒が主体的に学ぶ姿勢を育むためには、従来の板書・講義中心の授業スタイルだけではなく、適切な場面でＩＣＴ技術を取り入れなければならないが、国語科は読むことだけではなく、「正しく」書く力を育むことも求められる。それは文章力としての書く力は勿論、「手書きで正しく、丁寧に書く」力も含まれると考えている。タブレットやパソコンが身近にあるからこそ、手書きの良さにも気づかせながら学習意欲を高める方法をさらに深めていきたい。そして、深めたことを生徒に還元し、よりよい学びに繋げていきたい。

秋田県総合教育センターＢ講座（Ｂ－１０）

# 「学校マネジメント研修講座」

教諭　加賀　誠幸

【講座のねらい】

学校組織マネジメントに関する内容や学校運営上の課題解決に向けての方策等について、主体的・対話的に研修を深め、教育実践の中核を担う教員として資質向上を図る。

【期　日】令和２年１１月１６日（月）～１１月１７日（火）

【会　場】 秋田県総合教育センター

【日程・内容】

（１）１日目

１０：１０～１２：１０ ＜講義・協議・演習＞

「地域に開かれた教育課程」

１３：１０～１６：１５ ＜講義・演習＞

「学校組織マネジメントとミドルリーダーの果たす役割」

「本県の教育課題とミドルリーダーへの期待」

（２）２日目

１０：００～１１：３０＜講義・実技＞

「内外環境の把握による学校の特色づくりと課題解決策」

１１：４０～１２：３０＜演習・協議＞

「学校の課題解決に向けた組織的な取組①」

１３：３０～１６：１５＜演習・協議＞

「学校の課題解決に向けた組織的な取組②」

【受講者】 小中高支援学校教員３２名

【受講内容の概要等】

（１）　地域に開かれた教育課程（新学習指導要領、コミュニティ・スクールの重要性、学校運営協議会の設置・運営、ふるさと教育の充実　等）

（２）　学校組織マネジメントとミドルリーダーの果たす役割（学校組織マネジメントとは、個業から協働へ、ミドルリーダーからのアップ・ダウンマネジメント　等）

（３）　本県の教育課程とミドルリーダーへの期待（他県の例、多様性、正解のない世界、創造性、教員年齢構成　等）

（４）　内外環境の把握による学校の特色づくりと課題解決策（ＳＷＯＴ分析について、ＳＷＯＴ演習）

（５）　学校の課題解決に向けた組織的な取組①及び②（ＳＷＯＴ演習、まとめ振り返り　等）

【感想】

学校組織マネジメントに関する内容や学校運営上の課題解決に向けての方策について、講義や演習等を通して研修した。漠然と考えていた学校組織というものについて、中堅教員の果たす役割が大きいことを理解することができた。コミュニティ・スクールを活用した学校づくり、地域づくりに取り組んだ実践例については、学校・教員の存在価値について改めて考えさせられる内容であった。また、研修終盤に行った「ＳＷＯＴ分析」は、学校の効果的な教育活動を展開する上で今後活用していきたい。今回の研修で学んだことを生徒との関わりはもちろんのこと、学校運営にも活かしていきたいと考えている。

# 令和２年度県立学校ＩＣＴ活用ベーシック講座

教　諭　櫻　庭　　洋

【目的】　県立学校における高速大容量の校内通信ネットワーク及びタブレット端末等の整備を見据え、授業におけるＩＣＴの基礎的な活用やオンライン授業の方法を学ぶことで指導力の向上を図る。

【主催】　秋田県教育委員会

【期日】　８月７日（金）

【会場】　大館桂桜高等学校

【対象】　主にＩＣＴを授業で活用することに苦手意識をもっている教員を対象とし、校務分掌及び教科等は問わない。また、研修内容については校内研修会を実施するなどして、全職員で共有することとする。

【日程】１２：４０～１３：００　受付
１３：００～１３：１０　開会行事
１３：１０～１４：１０　ＩＣＴ活用推進委員による事例発表・実習
「ＩＣＴ機器を活用した授業実践について」
講師　岡　田　朋　和（花輪）
藤　井　　翼（大館桂桜）
１４：２０～１５：２０　ＩＣＴ活用推進委員による講義・実習
「Ｗｅｂ会議ソフトを活用したオンライン授業の体験」
講師　岡　田　朋　和（花輪）
藤　井　　翼（大館桂桜）
１５：３０～１５：５０　研修者による振り返り、まとめ
１５：５０～１６：００　閉会行事

【受講内容】

令和３年度から生徒１人に１台ずつのタブレットが配布されることを踏まえ、令和２年度県立高等学校ＩＣＴ活用推進委員の２名の先生方からその活用方法に関わる事例発表と実習が行われた。

前半の授業実践に関わる発表では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として緊急事態宣言の発令により休校になった際に花輪高校で行われたＷｅｂ授業の実際の様子が紹介された。本校でも英語の動画配信を行ったが、花輪高校では課題として配布された数学のプリントの解説動画を配信した事例が紹介された。見た目はオンライン配信されている進学塾や予備校の映像に近いイメージであったが、毎日耳にしていた自校の教員による解説は生徒にとっても聞きやすかったのではないかと感じた。

また、大館桂桜高校での電子黒板を活用した授業実践についての報告もあり、令和３年度から各校に導入が決定している電子黒板の活用法について、実際の板書の様子等を実演しながら見ることができた。パソコンと連動した様々な機能が充実しており、アイデア次第で授業の効率が非常に上がり、生徒の学習意欲を喚起できる素晴らしいツールであると感じた。

後半のオンライン授業の体験では、今後再度休講になった場合を想定し、ＺＯＯＭを活用したオンライン授業を実際に体験した。使用する機器も今後配布されるタブレット端末と同等機種のものを使用し、各校で実際に活用する場面に近い形で行われた。ＺＯＯＭで行うことができる機能についてもいくつか説明があり、ＺＯＯＭ上で１クラス全員で一斉授業を行いつつ、その中で一時的に小グループに分けてグループワークをさせる機能などは実際の教室に即した環境作りができていると感じた。

最後にこの研修の振り返りを「Ｇｏｏｇｌｅフォーム」を使用してアンケート集計する形で行われた。これについては今後、学校評価や授業アンケート等にも十分活用できるツールであり、我々の作業量を大幅に軽減できるものと感じた。今後多くの研修を積み、活用事例等を先生方に提供しながら、生徒の学習成果を向上させつつ、先生方の働き方改革につながるような情報と研修の場を提供していきたい。

# 令和２年度ＩＣＴ活用推進リーダー研修会

教　諭　　寺　田　尚　志

**【はじめに】**

令和２年１０月６日（火）総合教育センターにて、「令和２年度ＩＣＴ活用推進リーダー研修会」が開催された。目的は「ＩＣＴ活用推進リーダーの役割について確認するとともに、生徒１人１台端末による学習環境の変化に対応することを目的とした校内研修や情報モラル教育の在り方について共通理解を図り、各校におけるＩＣＴ機器を活用した組織的な授業改善の取組の推進に資する。」ことである。日程や内容は後述の通りであるが、ここでは、研修で印象に残った幾つかの Google のサービスについてまとめるとともに、今後校内研修をどのように進めていくのかの構想をまとめることにする。

**【Ⅰ　研修会の日程・内容】**

①受付
②開会行事
③概要の説明
　・ＩＣＴ活用推進リーダーの役割について
　・県立学校学習ネットワークシステム利用ガイドラインについて
④リーダー研修
　・ＩＣＴ機器の活用について
　・情報モラル教育について
　・G Suite For Education　の運用について
⑤アンケート記入・説明

**【Ⅱ　G Suite For Education 】について**

「G Suite For Education」では、Google Classroom をはじめとした、ファイル保存・同時編集、スケジュール管理、メール、ビデオ通話など、提供されているサービスの総称である。令和３年４月から本格的に導入される１人１台タブレットの Chromebook との相性が良い。提供されているサービスは以下のものがある。

ドキュメント　スライド　スプレッドシート
ドライブ　Jamboard

これらは、生徒と教員がどこからでもコラボレーションすることができる。ドキュメント、スプレッドシート、プレゼンテーションをリアルタイムで共同編集できる。

Gmail　Meet　Chat

好きな方法でコミュニケーションを取ることができる。メール、チャット、動画でクラス内のやり取りが活性化される。

Classroom　アサインメント　フォーム

グループの作成、課題の設定、テストの実施ができるほか、採点の時間も削減できる。

Keep　カレンダー

To-Do リストを作成したり、タスクのリマインダーや会議のスケジュールを設定したりできる。

Admin

生徒、デバイス、セキュリティを管理し、データを安全に保ちます。必要に応じて規模の調整も可能である。

**【おわりに】**

ＩＣＴ機器の使い方と上記の Google の各サービスの使い方に関する校内研修を充実させるとともに、教職員間での取り組み事例の共有の場を適切に設けたい。使い方の共有は、互見授業期間に機器を使う場合には現在使用している朝メモで全体に知らせてもらうようにするなどの方法を考えている。また G Suite For Education は、研修会を開催することと並行して、使用方法の解説動画をストックし共有するフォルダを設け、教職員が自由に閲覧できるようにしたいと考えている。

最後に、ＩＣＴの利用は生徒の成長を助けるための手段であって、決して目的ではない。ＩＣＴの利活用がどのように生徒の成長に繋がっているかを計る評価方法も併せて考えたい。

# 数学科「数学Ⅰ」学習指導案

日　　時：令和２年１０月２０日(火)６校時
対象生徒：十和田高校３年Ｂ組２８名
場　　所：３年Ｂ組教室、体育館
教 科 書：改訂版 最新 数学Ⅰ（数研出版）
授 業 者：寺　田　尚　志　（Ｔ１）
　　奥　山　和　貴　（Ｔ２）

１　単　元　名　　鋭角の三角比

２　単元の目標
（１）角の大きさなどを用いた計量に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとしている。【関心･意欲･態度】
（２）角の大きさなどを用いた計量を行うための数学的な見方や考え方を身に付け、具体的な事象を考察することができる。【数学的な見方や考え方】
（３）具体的な事象の数量の関係を三角比などを用いて表現し、図形の様々な計量を行うことができる。【数学的な技能】
（４）直角三角形における三角比の意味、三角比を鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な知識を身に付けている。【知識・理解】

３　取り上げる教材　数学Ⅰ　第４章　図形と計量
　　第１節　鋭角の三角比　「直角三角形の辺と角」

４　単元と生徒
（１）教材観
三角比（sin、cos、tan）は、高校に入って初めて触れる内容であり、生徒が苦手意識を持ちやすい分野でもある。しかし、三角比の概念は建築分野、電気電子分野など、生活の中で幅広く用いられている概念である。いかに苦手意識を払拭し、有用性を実感させられるかが問われる単元と考えられる。

（２）生徒観
男子１４人、女子１４人のクラスで、全体の半数以上が就職を希望している。授業では問題演習の際に生徒に板書と説明をさせているが、自身が担当する問題をより分かりやすく説明しようという姿勢が全体に浸透している。数学を得意とする生徒もいるため、その生徒たちの声を引き出しながら、活発な学び合いができるようにしたい。

（３）指導観
基本的な計量（測量）を体験的に学ぶことで、三角比の生活の中での有用性を感じるとともに、数学的に事象を考察する面白さに気付かせたい。

５　単元の評価規準

| ①関心･意欲･態度 | ②数学的な見方や考え方 | ③数学的な技能 | ④知識・理解 |
|---|---|---|---|
| 角の大きさなどを用いた計量に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとしている。 | 角の大きさなどを用いた計量を行うための数学的な見方や考え方を身に付け、具体的な事象を考察することができる。 | 具体的な事象の数量の関係を三角比などを用いて表現し、図形の様々な計量を行うことができる。 | 直角三角形における三角比の意味、三角比を鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な知識を身に付けている。 |

6　本時の計画

（１）題材名　　「直角三角形の辺と角」

（２）本時の目標　　三角比を用いて物の高さを計量（測量）する方法やそのための道具の作成活動を通して、身の周りの事象に数学的な見方や考え方を積極的に活用しようとする態度を身に付ける。

（３）学習の過程　　【 評価の観点…①関心･意欲･態度②見方や考え方③数学的な技能】

| | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点･評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>(10分) | 前時の復習 | 「練習6」を解説する。 | ※ICTの活用により時間短縮を図る。 |
| | **練習 6**　木の根もと P から水平に 10 m 離れた地点 Q に立って木の先端を見上げると，見上げる角度が 25° であった。目の高さを 1.6 m とすると，木の高さは何 m か。小数第 2 位を四捨五入して求めよ。 | | |
| | 本時の課題の確認 | | |
| | **ステージ上の校章は、体育館の床面から何 m のところにあるか。身近にある道具で測量してみよう。** | | |
| | 本時の流れの確認 | 学習プリントに記載されている「本時の流れ」を確認する。 | |
| 展開1<br>(15分) | 測量方法の検討 | 与えられた道具（分度器、糸、５円玉、セロハンテープ、ストロー）を用いて測量する方法をグループで話し合う。 | ①②グループで積極的に話し合いに参加しているか。 |
| | 測量道具の作成 | グループで測量に用いる道具を作成する。 | ※「仰角を特定できれば練習６のような計算で高さを測量できること」を確認し、そのための道具をどのように作成するか話し合うように促す。 |
| 展開2<br>(15分) | 校章の高さの計測 | グループで体育館ステージ上の校章までの高さを計測する。 | ※ストローをのぞき込む際に目の怪我に気を付けるよう注意喚起する。 |
| | 測量方法と結果の共有 | 結果をグループごとに黒板に記録して共有する。また、幾つかの班の発表により計測方法を共有する。 | ①③測量、記録や測量等の活動に積極的に取り組んでいるか。 |
| まとめ<br>(10分) | 授業の振り返り | Googleフォームによる振り返りアンケートを実施し､本時で身に付いた見方や考え方を振り返る。 | ・スマホ操作が遅れている生徒を補助する。<br>・身に付いた数学的な技能だけではなく、見方や考え方またはグループ活動についても振り返られるようなアンケート内容にする。 |

**※ＩＣＴの活用により時間短縮を図り、生徒が試行錯誤する時間を多くする。**
**※Ｔ．Ｔ．の活用により、よりきめ細かい学習支援を行う。**

# 商業科「ビジネス基礎」学習指導案

日　　時：令和２年１０月２０日（火）６校時
対象生徒：２年Ｂ組２８名
場　　所：ＩＴルーム
教 科 書：『ビジネス基礎　新訂版』（実教出版）
授 業 者：工藤　由紀子

１．単元名　　経済と流通の基礎

２．単元の目標　　経済の仕組みに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。

(1) 商品（もの・サービス）の定義を紹介し、経済の仕組み（生産・流通・消費）や経済主体と経済循環などについて理解し、企業活動が経済の発展に対して重要な役割を担っていることを理解する。【知識・理解】

(2) ものやサービスを生産するビジネス、ものを流通させるビジネス、生産・流通・消費を円滑にするビジネスなど、経済を支えるビジネスに関心を向け、ビジネスの定義および役割を理解しようとする。【関心・意欲・態度】

(3) 三大生産要素（土地・資本・労働力）の意味を確認し、これらは限りあるものであること、すなわち希少性概念について理解する。それゆえ、ビジネスは選択の連続であり、トレードオフおよび機会費用という経済学上の概念を理解することが重要であることを認識する。そして需要曲線と供給曲線から均衡価格を導き出す概念を考察する。【思考・判断・表現】

３．取り上げる教材　　経済のしくみとビジネス

４．単元と生徒

(1) 教材観

他教科でも学習する生産・流通・消費という経済を支える仕組みと経済主体としての家計・企業・財政の関係について基礎的・基本的な知識を身に付けているかを確認し、ビジネスの意義を考察させる。そして、三大生産要素について理解させ、希少性やトレード・オフ、機会費用、需要・供給曲線について考えることは生徒にとって難しく、具体的な事例に置き換えて考えさせたい。

(2) 生徒観

男子18名、女子10名のクラスであり、ほとんどの生徒が就職を希望している。男子は落ち着きがなく、騒然となる場面もあるが、発言力は見られる。女子は意欲的に授業に取り組み、理解力がある。こういう状況から生徒間の理解度の格差が見られ、男子の学習活動を女子が補っている。

(3) 指導観

価格が高ければ需要は減少し、価格が安くなれば需要が増加する需要の法則と供給者は価格が高いほど供給を増やす供給の法則を踏まえつつ、需要・供給それぞれの曲線の性質を別々に説明し、その後、二つを合わせることで均衡の理解を促す。

５．単元の評価規準

| | Ａ関心･意欲・態度 | Ｂ思考・判断・表現 | Ｃ技　能 | Ｄ知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 評価の観点 | ビジネスと経済の関係やビジネスの役割について関心をもち、自ら意欲的に身近な事例を調べたり、まとめたりしようとする。<br>経済活動の基礎となる基本的な考え方について関心をもち、自ら意欲的に具体例をあげようとする。 | ビジネスと経済の関係やビジネスの役割について、経済を支える仕組みや様々なビジネスの例から考察しようとする。<br>経済活動の基礎となる基本的な考え方について様々な事例をあげながら考察するとともに、具体的に説明することができる。 | ビジネスと経済の関係やビジネスの役割について事例をあげながらその共通点をまとめることができる。<br>経済活動の基礎となる基本的な考え方について具体的な事例に置き換えることができる。 | 生産・流通・消費という経済を支える仕組みと経済主体としての家計・企業・財政の関係について基礎的・基本的な知識を身に付けビジネスの意義について理解している。<br>三大生産要素について理解し、希少性やトレード・オフ、機会費用について理解している。 |

６．本時の計画
（１）題材名　　経済活動の基本的な考え方

（２）本時の目標
需要曲線と供給曲線から均衡価格を導き出す概念を理解することができる。

（２）学習過程（５０分）

| 時　間 | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導　入<br>５分 | 本時の流れ<br>目標確認 | 学習手順を確認する。 | 意欲的に取り組む準備ができているか。 |
| | **需要曲線と供給曲線から均衡価格を導き出す概念を理解することができる** | | |
| 展開１<br>２０分 | **「店舗を開業したとする。商品につける価格は高い方がいいか？安い方がいいか?」**　（スライドでも表示） | | 個々の事例から考察して発表することができるか。　〈B〉 |
| | | グループで話し合い・まとめ・発表をする。 | |
| | **「①つけた価格が高すぎたらどうなると考えられるか?<br>②それを避けるためにどうすればよいか?」**<br>（スライドでも表示） | | |
| | | グループで話し合い・まとめ・発表をする。 | |
| | (4)価格と合理的な選択　　教科書P35 | | ICTにより需要・供給それぞれの曲線の性質を視覚的に考えさせる。 |
| | 需要とは何か<br>供給とは何か | プリントに記入する。 | それぞれの曲線の性質を個別に確認した後で重ね合わせる。 |
| | 需要曲線<br>供給曲線<br>均衡価格 | プリントに記入する。 | |
| 展開２<br>２０分 | (5)商品の価格が変化する理由<br>教科書P35～P36<br>商品の希少性 | | ほとんどの場合一致する点は存在することに気付かせる。 |
| | **「もし、世の中の人の所得が全体的に増えたらどうなるか?」** | | |
| | | グループで話し合い・まとめ・発表をする。 | |
| | **「ある商品が今までよりも安く作られるようになったらどうなるか?」** | | |
| | | グループで話し合い・まとめ・発表をする。 | |
| | 需要曲線と供給曲線のシフト | プリントに記入する。 | さまざまな事象において需要曲線と供給曲線がどのようにシフトするのかを考察し、正しく判断できてるか。　〈B〉 |
| | 確認問題<br>教科書P36(2)(3) | 教科書の空欄に答えを記入する。<br>生徒による解答発表をする。 | |
| まとめ<br>５分 | 振り返りシートの記入 | 本時の内容をまとめる。 | 意欲的に取り組んでいるか。 |

# 第２回指導主事訪問（１０月２０日）　全体会（記録）

①分科会報告

＜数学＞

・目標が「身の回りの事象に～活用しようとする態度を身に付ける」であるため，それを実現するための測量道具の作成やその過程での「分かった！」との発言がよかった。

・振り返りで google form を利用した。記述欄で身近な物を使って測量できたり，他の高さ（例えば校舎の高さ）を測りたいというコメントがあった。

・生徒の解説について，他の生徒や教師からの助言や支援があってもよかった。

・振り返りを視覚化することで、他の生徒と共有し、次への授業につながる。

＜商業＞

・課題の提示や学習の流れの事前の提示があった。

・プリントに目標の記入や振り返りで何ができたか記入させ、それにコメントして返却するのがよかった。

・タイマーで測ることで、生徒の学習に対するメリハリがつく。

・教科書のどこをやるか明示している。

・グループで意見交換等をすることで自信をもって発表できていた。

②助言

＜伊藤淳　指導主事＞

１．諸表簿

・丁寧な記入やきめ細やかなコメントがされてあった。

・考査問題では、思考力を問う問題が出題されていてよかった。

２．授業参観

・学習環境が整っており、整容面や授業に集中していてよかった。

・一か月前課題を意識し，目標や学習の流れの提示、ジグソー法による一人一人に役割を与える、黒板の前に立って自分の考えを述べる　等の様子が見られた。それらをスモールステップとしてこれからの指導に生かしてほしい。

３．研究授業

・生徒の自己指導力の向上が必要。そのために自己存在感の場を与え、自己決定や共感的理解も求められる。例えば、学ぶ楽しさや自分で考え、発表する、たどたどしくても丁寧に聴く等

・新しいことを実践するだけでなく、今まで実践してきたことをより良くすることで魅力的な学校にしていく。

＜高橋　司　指導主事＞

・生徒が明るく、授業へ向かう態度がよかった。

・ユニバーサルデザインを推進していく。

・生徒の取り組み方法をより良くしていく。(視覚化等)

・学び合いにおいて、生徒の意見を教師が都合よく解釈したり、うなずくことで教師の思い通りの方向へ進めたりするなど、生徒の活発な意見を阻害していないか (ペアやグループ活動は結構難しい)。

・目標の焦点化や方法・説明の構造化がなされているか。

・十和田高校具体１０項目の取組が特徴的である。

・カリキュラム・マネジメントや教科横断的な視点で育成していく。また、授業にフィードバックし、指導力の向上を図る。

・かづの学で、比較や考察ができてほしい。

・主体的対話的で深い学びを通して生徒がどのように変容していくか。

# ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニングの取り組み

教　諭　岩　澤　利　哉

はじめに

本校に入学してくる生徒は、素直で人懐っこい面が見られると同時に、コミュニケーションに関わるトラブルがしばしばみられる。これまでは、様々な活動を通して人間関係の築き方を身につけてきたと思うが、今年度は、意識的に学び、トレーニングすることで、コミュニケーションの仕方を育む計画を立て、取り組む試みをした。その概要を報告する。

【ねらい】

この学校で一緒に学んでいく仲間づくりをする。他人との接し方（ソーシャルスキル）、自己表現（アサーション）の仕方をトレーニングすることで、人間関係でのトラブルを防ぎ、コミュニケーション能力の向上を図る。そのことにより、他者と協力しながら住みよい社会を作っていく資質の基盤づくりをする。ゴールは自他を尊重する人になること。

※ソーシャルスキルトレーニング　Social Skills Training（SST）

対人関係や集団行動を上手に営んでいくための技能（スキル）を習得する練習

※アサーショントレーニング　Assertion Training

自分と相手のお互いを大切にしながら率直に素直に自己表現をする練習

【対象】　新入生を中心に２年生でも実施

【実施時間】　総合的探究の時間、LHR

【実施計画】　４月　８日（水）第１回　外部講師による生徒対象講座と職員対象研修講座

１４日（火）第２回　クラスづくり、仲間づくり

２８日（火）第３回　対人トラブル防止のための伝え方

Ｉメッセージと You メッセージ

６月１６日（火）第４回　ソーシャルスキルトレーニング①

９月　１日（火）第５回　ソーシャルスキルトレーニング②

１０月　１日（木）第６回　アサーショントレーニング①

３月１６日（火）第７回　アサーショントレーニング②

【担当】　心のケア・いじめ防止委員会及び学年部

（学年部の先生が生徒と一緒に取り組むことで先生と生徒の人間関係づくりにも寄与する）

【実施内容】

４月　３日（金）教職員研修会　講師　鳴海敏之氏（こころの駅・なるみ主宰）

鳴海氏は青森県でカウンセラーやクラスづくり講座等を開催されている方。「和顔施」や「正の注目」「負の注目」等を学んだ。

４月　８日（水）第１回ゲストティーチャー授業

１年生に対して鳴海氏が授業を行った。「一期一会」のお話から首から名札をぶら下げて歩き回って出会った人とあいさつするワークを行った。

４月１４日（火）第２回「友達作り名人」になるヒント

あまり話したことのない人と交流することを目標に「後出しじゃんけん」「ゴジラとゴリラ」「仲間で集まれ」のゲームをした。

６月　９日（火）第３回「コミュニケーション」のヒント

自己表現には、「私は」で始まるＩメッセージと「あなたは」で始まる You メッセージがあることを学び、実際に練習をして感じ方を確かめ、共有した。

６月１６日（火）①第４回ゲストティーチャー授業

１年生に対する鳴海氏の２回目の授業。「勇気づけの学級づくり」と題して『子どもによる子どものための子どもの権利条約』まえおきを教材に学級の一人一人が幸せでつながっていることを考えた。

②２年生ゲストティーチャー授業

「お互いを理解し合い、信頼し合うために」と題して学校は何のため？学ぶのは何のため？と問いかけ、幸せになるためというのが鳴海氏の答えだった。

③職員研修会

学級づくりの失敗の事例を紹介いただいた。学級づくりは職員室からという言葉があった。

９月　１日（火）第５回ドラえもんから学ぶコミュニケーションのヒント「アサーション」

ドラえもんのキャラクターを借りて、攻撃的タイプ（ジャイアン）、非主張的タイプ（のび太）、アサーティブタイプ（しずかちゃん）という自己表現の３タイプを学び、アサーショントレーニングとして上手な断り方を練習した。

１０月　１日（木）第６回コミュニケーション・学び・つながりの基本「傾聴」

アクティブリスニングともいわれる傾聴について学び、ゲームやワークで実践してみた。

３月１６日（火）第７回クラス会議をやってみよう！

クラス会議とは、クラスの生徒が自分たちで話し合い、クラスの問題や個人の問題を解決していく会議のことで、やり方は①輪になる②「ありがとうみつけ」をする③議題の話し合いをするというものである。「ありがとう見つけ」は級友に感謝を伝えるもので、一人一人が伝える。クラス会議ではトーキングスティックと呼ばれる、それを持っている人が話すことができるアイテムを使う。持っていない人は静かに聴くことがルールである。「発言者は理解される必要がある」という言葉があり、一人一人が自分は理解されているという感覚が広がると、信頼感が生まれ、発言しやすくなり、クラスに貢献したいという気持ちが高まるという。この日は「ありがとうみつけ」をした後、事前に書いてもらった議題のいくつかを話し合った。

おわりに

この１年は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言があり、４月下旬から５月連級まで休校になり、計画通りの実施はできなかったが、１年生にはゲストティーチャー授業を含め７回のソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング、２年生には１回のゲストティーチャー授業を行うことができた。コロナ禍に青森から来ていただいた鳴海さんには感謝いたします。

１年生、２年生ともに、今年も様々なトラブルは生じた。しかし、この授業で学んだことは、これからの学校生活で生かすことができる様々なヒントがあったと思う。２年生のゲストティーチャー授業のアンケートでは、コミュニケーションを学びたい、良い人間関係を築きたいという項目に〇をつけている生徒が多くいた。このときの授業のテーマは「相手の話を丁寧に聴くこと」「相手を傷つけずに伝わる伝え方で伝える」だった。この意欲を伸ばしサポートするのが、我々の仕事だと思う。それを心にとめて関わりたい。

## （ふるさと教育）　　第１学年Ａ組　国語総合（古典）学習指導案

実施日時　　令和３年３月１２日（金）５校時
クラス　　１年Ａ組　生徒１８名（男子１２名、女子６名）
授業者　　齊藤　恭子

| |
|---|
| 方言トランプ遊びを通して、鹿角の方言の魅力に気づくことができる。 |

１　単　　元　　２　随筆の楽しみ　『枕草子』「にくきもの」
２　単元の目標　　古典に対する親しみを深め、筆者の人間や社会に対するものの見方、感じ方、考え方について理解する。
３　単元と生徒　　明るく、活発に発言する生徒もおり、全体としては落ち着いた雰囲気の中で授業に臨むことができるクラスである。また、中には古典を苦手としている生徒も見られる。
４　指導と評価の計画　（全５時間）
（１）動詞、形容詞について理解する。　…　第１時
（２）作者が「にくし」と感じているものをとらえ、その理由を考える。
…　第２時、第３時、第４時
（３）方言に残されている古語について理解する。　…　第５時（本時）

| Ａ　関心・意欲・態度 | Ｂ　話す・聞く能力 | Ｅ　知識・理解 |
|---|---|---|
| 鹿角方言トランプに積極的に取り組むことができる。 | 学習後には日常会話の中でも鹿角の方言を用いながら話すことができる。 | 鹿角方言に残されている古語について理解する。 |

５　本時の計画
（１）目標
方言トランプ遊びを通して、この地で育まれてきた「鹿角弁」の魅力を味わう。
（２）展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入５分 | ・本時の目標を確認する。 | ・３～４人のグループをつくらせる。 | ・本時の目標を理解することができたか。（A) |
| 展開４０分 | ・「共通語」と「方言」の違いを確認する。<br>・日本の中の「秋田県」、秋田県の中の「鹿角市」であることを確認する。<br>・本文に出てきた「ねぶたし」の意味について確認する。<br>・グループごとに「神経衰弱」をすることによって、５２枚をとりあう。 | ・具体例を挙げながら、共通語と方言の違いに気づかせる。<br>・日本地図のワークシートを用いて、秋田県、鹿角市の場所を確認させる。<br>・「ねぶたし」をもとに各地の方言について考えさせる。<br>・実際に鹿角方言トランプを用いて「神経衰弱」をしながら、方言に触れさせる。 | ・鹿角弁の魅力を味わうことができたか。（E） |
| まとめ５分 | ・振り返りシートに記入する | ・机間巡視をしながら、「方言トランプ」の感想を聞く。 | ・自己評価ができたか。（A） |

# 公民科「倫理」学習指導案

実 施 日 時：令和３年１月２１日（木）４校時　十和田高校３年A組１２名（男子２名、女子１０名）
使用教科書　：倫理（東京書籍）
授　業　者　：岩澤　利哉

１　単　元　名　第３章「国際社会に生きる日本人の自覚」　６　西洋思想と日本人の近代化

２　単元の目標　　日本近代化の時期にどのような西洋思想の理解と導入がなされ、どのような成果が上げられたのか在来の思想との絡み合いから考える。

３　単元と生徒　　真面目に授業に取り組む集団である。問いかけや呼びかけに答え、反応し、対話をすることができる。鹿角にゆかりのある先人について調べ、世の中に与えた影響やその生き方在り方を考えさせたい。

４　指導と評価の計画　近代への啓蒙　１　　国民道徳とキリスト教　１　　近代的な自己の求め　１
社会思想の展開　１　　近代日本の創造的な思想　２（本時２／２）

５　本時の計画　　題材名　「鹿角の先人の生涯から学ぶ」
（１）目標　　①鹿角ゆかりの先人について各班の発表から理解する。
②先人の生き方をヒントに人間の生き方在り方について対話し考える。
（２）学習の過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | ○１年次に先人顕彰館見学で学んだ和井内貞行、内藤湖南、瀬川清子について各班で調べたことを発表することを確認する。<br>学習課題：鹿角にゆかりのある先人について調べたことを発表する。 | | |
| 展開<br>40分<br>発表<br>20分<br>対話<br>20分 | ○１班　和井内貞行について<br>十和田湖でのヒメマス養殖に成功<br>○２班　内藤湖南について<br>ジャーナリストから東洋史学者へ<br>○３班　瀬川清子について<br>女性民俗学の大家 | ・調べたことを分かりやすく伝えるように促す。<br>・疑問点は積極的に質問するように促す。 | ・聞きやすく工夫しているか。（思考・判断・表現）<br>・しっかり聴こうとしているか。（関心・意欲・態度） |
| | 活動：発表を聞いて感じたことを話し合い、人間の生き方在り方を考える。<br>○輪になって座り、トーキングスティックを使って感想を聞き、その都度、発言したいことがあれば対話する。 | ・発言者の話を聞くことを守らせ、自由に発言できる雰囲気を作る。 | ・自分の視点を表現することで集団の学びに寄与しようとしているか。（思考・判断・表現） |
| まとめ<br>5分 | ・対話の中で出た意見や生き方在り方のヒントについて整理する。 | ・先人の生き様から生徒が何をくみ取るか大切に扱いたい。 | |

# 数学「数学Ⅰ」学習指導案

実施日時　　２月１２日（金）１校時　１年Ｂ組　２０名（男子１２名、女子８名）
使用教科書　　数学Ⅰ　Ｓｔａｎｄａｒｄ（東京書籍）
授　業　者　　奥山　和貴、寺田　尚志

１　単　　元　　名　　第５章「データの分析」　第２節　データの相関　①相関関係
２　単 元 の 目 標　　統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにする。
３　単 元 と 生 徒　　元気で活発な男子生徒が多い。数学における学力差が大きく、数学を身近なものに感じることができない生徒も多い。このことから、生徒にとって身近な題材であるスポーツテストのデータを用いることで、散布図による相関関係の分析について理解させたい。さらに、身近な題材を用いることで、ふるさと教育「かづの学」での活用につなげていきたい。
４　指導と評価の計画　　１節　①　データの整理　　（１時間）
　　②　データの代表値　　（１時間）
　　③　データの散らばり　（５時間）
　　２節　①　相関関係　　（２時間）　本時２時間目
　　②　相関係数　　（２時間）
５　本 時 の 計 画
（１）　目　　標　　散布図を作成し、データの相関関係を読み取ることができる。
（２）　学習の過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>10分 | 学習課題<br>４月に行ったスポーツテストの実際のデータ(*)から、複数のデータの相関関係の有無について予想し見通しを持つ。 | ・２つのデータの関連性を調べるために「散布図」が活用できることを生徒から引き出す。<br>・配付したデータを黒板に掲示し、本時の流れを説明する。 | ・話を聞くことができているか。 |
| | データ(*)：１年生男子２５名分の以下の資料<br>「身長」「体重」「座高」「握力」「反復横跳び」「シャトルラン」<br>「５０m走」「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」（体育科より） | | |
| 展開<br>35分 | [グループ活動]<br>①どのデータで散布図考えるかグループで相談する。<br>②散布図を作成してみる。<br>③作成した資料について、自分達の考えをまとめる。 | ・予め、４～５人のグループを作っておく。<br>・選択するデータが重ならないように机間巡視しながら調整する。<br>・グループ内で役割分担させつつ、協力して作業を進めるよう声掛けする。 | ・協力して取りんでいるか。 |
| | [全体活動]<br>④各グループで作成した散布図を掲示し、全員で見あう。その際、他のグループの散布図等に感想や意見を付箋で残す。 | ・各班の散布図をみて、散布図から読み取れることを付箋で残すよう促す。 | ・意欲的に取り組んでいるか。 |
| | [グループ活動]<br>⑤最初のグループに戻り、活動のまとめを行う。 | ・付箋に書かれた意見を踏まえて、文章化させる。 | ・授業に基づいて意見を述べているか。 |
| 整理<br>5分 | 散布図の有用性について全体で確認する。 | ・グループでまとめたことをいくつか発表させる。 | |

# 理科「生物」学習指導案

実 施 日 時　　１月１９日（火）１校時　３年Ａ組教室　生徒１７名（男子４名、女子１３名）
使用教科書　　スタンダード生物（東京書籍）
授　業　者　　櫻庭　洋

１　単　元　名　第５編　生態と環境　　４章　生態系と生物多様性　　３節　生物多様性の保全と復元
２　単元の目標　　生物多様性や生態系を保全するには，生態系の成り立ちや，生物が減少しにくいしくみを科学的に分析し，生態系を適切に管理する必要があることを理解する。
３　単元と生徒　　単元は外来生物による生態系の破壊と生態系の保全に関わる内容であり、身近に雄大な自然のある本校の生徒にとっては非常に興味を持ちやすい学習内容である。
　生徒は女子の割合が多く、男子には積極的に発言することができる生徒もいるが、全体的におとなしい生徒の集団である。学習に向かう姿勢は非常に前向きで与えられた課題を協力しながら完成しようとする姿が見られる。
４　指導と評価の計画
　１節　生物多様性とその意味　　１時間
　２節　生物多様性を減少させる要因　　１時間
　３節　生物多様性の保全と復元　　２時間（本時２／２）

| Ａ　関心・意欲・態度 | Ｂ　思考・判断・表現 | Ｃ　観察・実験の技能 | Ｄ　知識・理解 |
|---|---|---|---|
| ・生態系を減少させる要因に関心や探究心をもち，意欲的にそれらを探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。 | ・生態系と生物の多様性、保全と復元に問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。 | ・生物の絶滅の模擬実験を通して，絶滅がどれくらいの確率で起こるかを習得するとともに，観察の過程や結果を的確に記録，整理し，生物の絶滅について科学的に探究する技能を身に付けている。 | ・生物多様性やその意味について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。<br>・外来生物を駆除するときの注意点について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。 |

５　本時の計画
（１）　目標　身近に生息する外来種を調べ、その生物の生態系への影響を発表することができる。
（２）　学習の過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>５<br>分 | 【本時の学習内容の確認】<br>・本時の進め方について確認する。 | ・本時の段取りを簡潔に説明し、発表シートの作成に時間を確保する。 | ・教師の話を聞くことができているか。〔A〕 |
| 展開<br>40<br>分 | 【グループ毎の学び合い】<br>・インターネット、教科書、資料集等を利用して鹿角地域に生息する外来種を調査した内容を情報共有する。<br>・調査結果をもとに生息する外来種とその環境被害等について学び合う。<br>・1枚のシート（A4用紙）にまとめる。<br><br>【クラス全体での学び合い】<br>・まとめたシートを使って他のグループに報告する。<br>・作ったシートはスクリーンに投射して共有する。 | ・できるだけ生徒が自分たちの力でデータを集め、学び合いを進められるように解答を誘導しすぎない。<br><br>・生徒が自分の言葉で説明するように配慮する。 | ・積極的に調べ学習に取り組んでいるか。〔A〕<br><br>・わかりやすい言葉で説明をしているか。〔B〕 |
| まとめ<br>５<br>分 | ・本時の内容の振り返りを行う。 | ・発表したグループの内容を簡潔にまとめ、必要に応じて内容を補足する。 | |

# 保健体育科「保健」学習指導案

令和３年１月２９日（金）５校時　　１年Ｂ組教室　　生徒２０名（男子１２名、女子８名）

使用教科書：最新高等学校保健体育（大修館書店）

授 業 者：神居　恵悟

１ 単　　元　　名　　安全な社会生活（交通事故の現状と発生要因）

２ 単 元 の 目 標　　安全な社会生活の実現のためには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であること、交通事故の発生要因の特性やその責任、適切な応急手当の意義や方法について理解し、実践できるようになる。

３ 単 元 と 生 徒

鹿角市の交通事故の発生状況や、鹿角市警察署のホームページから管内の事故マップをダウンロードし、教材として使用することで、生徒に身近な問題として捉えさせる。また、交通事故の発生率が高い年代をデータで示したり、交通事故の映像を使用したりすることで視覚的に理解を図り、予防に対する必要感を高めていく。

４　指導と評価の計画

交通事故の現状と発生要因（１時間：本時）　交通事故の予防（１時間）

| A　関心･意欲･態度 | B　思考･判断 | C　知識･理解 |
|---|---|---|
| 安全な社会生活の実現について、学習内容を自分の言葉でまとめたり、考えたことを発表したりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 | 安全な社会生活の実現について、学んだ知識や資料を基に、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明できる。 | 安全な社会生活の実現のためには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であることについて理解し、自分の言葉で発言したり、記述したりできる。 |

５　本 時 の 計 画

（1）題　　材　　名　　交通事故の現状と発生要因

（2）本 時 の 目 標　　交通事故の要因について考え、自分の言葉で表現することができる。

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入８分 | ・あいさつ<br>・鹿角市の交通事故 | ・鹿角市の交通事故の発生状況、事故マップを用いて、どのような場所でどれだけの事故が発生しているかを考えさせる。 | |
| | **本時の目標「交通事故の要因と責任について考え、自分の言葉でまとめることができる」** | | |
| 展開35分 | ・交通事故の発生状況<br>・交通事故の要因①<br>・交通事故の要因② | ・日本の年代別の交通事故の発生状況を示したグラフを見せ、身近な問題として捉えさせる。<br>・ドライブレコーダーの交通事故映像を見せ、なぜ交通事故が発生するのかを考えさせる。（グループ・発表）<br>・視聴覚教材を用い、交通事故に繋がる３つの要因について示す。 | ・交通事故の特徴を踏まえ、その要因について根拠を持って考えられている。（B 観察・発表）<br>・事故の要因について、他者との関わりを通して、自分自身に関わることとして考えを深めようとしている。（A 観察・発表） |
| まとめ７分 | ・本時の内容をまとめる | ・事故の発生要因と責任について、本時の内容を元に根拠をもって自分の言葉にまとめさせる。（発表） | ・なぜ交通事故が発生するのかについて、根拠を持って考えられている。（B ワークシート） |

芸術科（クラフト）学習指導案

１月１８日（月）３校時　第３学年Ｂ・Ｃ組　生徒７名（男子２名、女子５名）
使用教科書　なし
授業者　　中山　薫

１　題材　　リンゴ・桃の花制作
２　題材の目標　　鹿角の北限の桃は食したことがあっても、花について知らない生徒が多い。
写真を見ながら桃の花を粘土で作ってみる。
３　題材と生徒　　鹿角はリンゴや桃の栽培が盛んであり、生徒たちにとって、どちらも非常に身近な果物である。しかし、その花を間近で見ていないので、その美しさや色合いの変化などは見逃している。花を写実的に立体作品として表現させることで、それまで気がつかなかった身近なものの形の美しさや、色合いの変化などに気付かせ、表現する喜びを感じさせたい。

４　指導と評価の計画（全２時間）
１．粘土を薄くのばす　２．着色をする。　３、花びら形にする　４．花の形に整える
４．鑑賞

| 関心・意欲・態度 | 発想・構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
|---|---|---|---|
| リンゴや桃の花の形や色に興味を持ち、進んで制作しようとしている。 | 花の色や形をよく観察し、実物に近づけるよう努力している。葉も枝についていることを知る。 | 花（写真）と自分の作品を見比べ、形や色が写実的になるよう工夫して表現できる。 | 自分や友人の作品を鑑賞し、良さや美しさ、改善点などを見つけることができる。 |

５　本時の計画（１時間 ）
（１）　ねらい　粘土で花の形をつくる
（２）　展開

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>10分 | 本時の目標：粘土の花をつくる<br>・題材の説明<br>・本時の目標の確認<br>・本時に使用する道具（粘土、のし棒、花芯、工作台）の確認 | ・参考作品（北限の桃の花の写真）を見せ、生徒の理解を助ける。<br>・花びらの特徴、枚数について理解したか確認する。 | |
| 展開<br>30分 | ・粘土に色を着ける<br>・型紙を用いて花びらの形を作る。<br>・花心を作る<br>葉を作る<br>・作業が早い生徒には、枝の形を整えさせ、微調整ができる素材であるという実感を持たせる。 | ・桃の花の色に見えるよう彩色を工夫する。 | 【創造的な技能】<br>花弁をまとめて一つの花にできている。　→A 評価 |
| 片付け<br>10分 | ・作業途中の材料に記名し、提出する。<br>・ゴミが散らからないように新聞紙で包んで片付ける。散らかり方がひどければ掃き掃除をする。<br>・次時の説明 | ・後片付けや掃除をしっかり行うよう確認し、声かけや指導を行う。<br>・次時の説明を行う。 | |

# 外国語（英語）「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

令和２年８月３１日(月) ２校時　　３年Ａ組教室　　生徒１７名（男子４名、女子１３名）
使用教科書　　Grove English Communication Ⅱ（文英堂）
授業者　　木村　由美

１　単元名　　Lesson 5 A Hidden History of Tomatoes
２　単元の目標
　トマトの起源と世界に広まる経緯を知り、食べ物の歴史や地理的知識など他教科の学習にもつながる総合的な知識を身につける。
３　単元と生徒
　トマトが世界に広がっていく歴史や日本への伝来などを通して、世界の食生活についても、ＡＬＴとの授業も活用して理解を深める。また、鹿角地域の食生活や農作物について調べ、まとめ、発表する機会を設定する
　生徒については、授業に対する姿勢はおおむね良好で、前向きに英語学習に取り組んでいる。文法に対して苦手意識が強い生徒もいるが、音読や発音練習などにも意欲的に取り組むことができる。
４　指導と評価の計画
導入（１時間）　内容理解、文法演習（６時間）　調査、まとめ（１時間）　発表、まとめ（１時間：本時）

| Ａ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | Ｂ　外国語表現の能力 | Ｃ　外国語理解の能力 | Ｄ　言語や文化についての知識・理解 |
|---|---|---|---|
| ・協力して作業することができる。<br>・調べた内容を分かりやすく伝えようと工夫することができる。 | ・本文中に出てきた表現を使って、鹿角の食生活や農作物の歴史について書いたり話したりすることができる。 | ・トマトの歴史について理解することができる。<br>・発表を聞いて内容を箇条書きでまとめることができる。 | ・トマトが世界にどのように広がったか理解することができる。 |

５　本時の計画
（１）　目標　　各班の発表を聞いて、内容を箇条書きでまとめることができる。
（２）　学習の過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>１<br>５<br>分 | ・各班に分かれて原稿を読みあい、発音や内容を確認する。 | ・各班を回って、発音に不安なところがないか声をかける。<br>・できるだけ原稿を見ないで話せるようになっているか確認する。 | |
| 展開<br>２<br>５<br>分 | ・本時の目標を提示する。<br>発表の内容をわかりやすくまとめよう。<br>・１番目のグループの生徒は他のグループへ行き、調査内容を発表する。聞いている生徒は内容を箇条書きでワークシートにまとめる。<br>・次に、２番目のグループの生徒が他のグループで発表し、聞いている生徒は内容をまとめる。以下同様に全てのグループが発表する。 | ・必要があれば、声の大きさや速度などアドバイスする。<br>・ワークシートのまとめ方に不足があれば助言を与える。 | ・話す速度や声の大きさに注意しているか[A]<br>・鹿角の農作物や食生活について話すことができるか[B] |
| 整理<br>１<br>０<br>分 | ・ワークシートにまとめた内容を黒板に書かせて確認する。 | ・ワークシートを提出するよう指示する。<br>［評価］<br>授業後にプリントを回収し評価する。 | ・各班の発表内容を適切にまとめることができたか[C] |

# 第２学年　家庭科（課題研究）学習指導案

日　時　　９月１６日(水) ３・４校時　２年Ｂ組　調理室　生徒２８名（男子１８名、女子１０名）
授業者　　能島　直美

１　単　元　名　　鹿角の茜染体験
２　単元の目標　　１３００年の歴史を持つ鹿角の紫根染・茜染の歴史や製作方法を学び、実際に茜染を体験することで地域の伝統文化への理解を深める。
３　単元と生徒　　元気がよく、明るい雰囲気の中授業を行うことが多いが、集中力が続かない場面もある。課題研究は、様々な分野の学習を行うことができ、特に実習を楽しみに行っている生徒が多い。
４　指導と評価の計画（４時間）
　　１、２　鹿角紫根染・茜染の歴史学習と絞り作業
　　３、４　茜染体験（本時３・４／４）

| 関心・意欲・態度 [A] | 思考・判断・表現 [B] | 技能 [C] | 知識・理解 [D] |
|---|---|---|---|
| 鹿角の紫根染・茜染の歴史や製作方法に興味を持ち、講話や体験をふまえることで、郷土への関心を高めることができる。 | 鹿角の紫根染・茜染の歴史や製作方法についての講話や体験から、深く考え、表現することができる。 | 鹿角絞りの作業や茜染を体験することで、先人の努力や技を習得することができる。 | 鹿角の紫根染・茜染の歴史を知り、製作方法を体験することで、改めて郷土について理解を深めることができる。 |

５　本時の計画
（１）題材名　　「鹿角の茜染」
（２）本時の目標　鹿角の茜染を体験し、地域の伝統文化への理解を深める。
（３）学習の過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>（５分） | ・前時の確認<br>・本時の目標を知る。 | ・前時に絞り作業した布の確認をする。<br>・本時の作業工程、留意事項を説明する。 | |
| 展開<br>(95分) | ・茜染作業工程に従って、２人組で協力し合って作業を行う。<br>①先染め<br>②本染め<br>③中媒染<br>④本染め<br>⑤流水で布を洗う<br>⑥絞りを解く<br>⑦しっかり洗う<br>⑧タオルに包んで絞る<br>⑨完成した作品を干す | ・本染は、温度が高いので火傷等がないように注意する。<br>・生徒は２人１組で作業を行う。<br>・机間巡視をし、指示通り作業ができているか確認をする。<br>・絞りを解く作業では、リッパーで布に穴を空けないように十分注意を行う。<br>・完成した作品には、名前を付けて干すように指導する。 | ・茜染の作業工程を守り、作業を行うことができる。<br>［C］ |
| まとめ<br>（５分） | ・使用したものを片付ける。<br>・完成した各自の作品を見て、振り返りシートに記入する。 | ・記入された感想用紙を回収し、乾燥後箱に２か月間保管し、学校祭で展示することを伝える。 | ・茜染の製作方法を体験し、郷土の文化への理解を深めることができたか。<br>［D］ |

# 商業科「ビジネス基礎」学習指導案

日　　時：令和２年１２月７日（月）６校時
対象生徒：２年Ｂ組２８名
場　　所：２Ｂ教室
教 科 書：『ビジネス基礎　新訂版』（実教出版）
授 業 者：工藤　由紀子

１．単元名　　第２章　経済と流通の基礎　　３　経済活動と流通
２．単元の目標
　経済活動における流通の意義や役割を理解し、情報技術の発達に伴う流通の発達について考察し、自らの経験と結び付けて探求することができる。
３．単元と生徒
　男子18名、女子10名のクラスであり、ほとんどの生徒が就職を希望している。男子は落ち着きがなく、騒然となる場面もあるが、発言力は見られる。女子は意欲的に授業に取り組み、理解力がある。こういう状況から生徒間の理解度の格差が見られ、男子の学習活動を女子が補っている。
　流通経路と商品の分類が理解されたところで、地場産品がどのような流通経路を経ていくのかを考察して理解させたい。
４．指導と評価の計画
　１　流通の意味　　１時間　　３　流通機構　　１時間（本時）
　２　流通の役割　　１時間　　４　流通をとりまく環境の変化　　２時間

| | Ａ関心･意欲・態度 | Ｂ思考・判断・表現 | Ｃ技　能 | Ｄ知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 評価の観点 | 生産と消費の隔たりを結びつける流通の機能や仕組みに関心をもち，流通活動の経済的特徴や環境による変化について自ら意欲的に調べたりまとめたりしようとする。 | 生産と消費の隔たりを結びつける流通の機能や仕組みについて主体的に考察するとともに，流通活動の経済的特徴を小売業の業種・業態の変化や電子商取引の発展とかかわらせてとらえようとしている。 | 生産と消費の隔たりを結びつける流通の機能や仕組みについて，様々な資料を選択して活用しその変化を把握することができる。 | 生産と消費の隔たりを結びつける流通の機能や仕組みについての基礎的・基本的な知識を身に付け，流通活動全体に共通する経済的特徴を，小売業の業種・業態の変化や電子商取引の発展とかかわらせて理解している。 |

５．本時の計画
(1) 題材名　流通機構
(2) 本時の目標
　流通機構や流通経路などの仕組みについて理解させる。特に後者については、生活用品と産業用品に分けて整理する。
(3) 学習の過程

| 時　間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 |
|---|---|---|---|
| 導　入<br>５分 | 本時の流れ<br>目標確認 | 学習手順を確認する。 | |
| | 売買業者の果たす収集・仲継・分散機能を理解し、商品の種類によって流通経路が異なることを理解できる。 | | |
| 展　開<br>４０分 | 「生産者は、いろいろな商品を作るよりも、特定の商品作りに専念したほうがいいのはなぜか？」 | | 個々の事例から考察して発表することができるか。　〈B〉 |
| | | グループで話し合い・まとめ・発表をする。 | |
| | 流通機構の意味を考える。 | | |
| | 流通経路を教科書P50の図から結びつきを考え、売買業者が介在することで生産者、消費者ともに取引回数が減少することを発見させる。 | 収集機能・仲継機能・分散機能の重要性を「分業」と「便利で豊かな生活」というP45の内容と関連させながら説明する。 | 生産と消費の隔たりを結びつける流通の機能や仕組みについて主体的に考察することができるか。　〈B〉 |
| | 取り扱い商品ごとの具体的な流通経路を考える。<br>生活用品と産業用品を商品の教科書P51の分類図で確認する。<br>地場産品の流通経路を考える。 | 基本的流通経路（生活用品４、産業用品２）を示し、具体的な取扱商品を例示する。<br>生活用品についてはCtoC取引(消費者間取引)が台頭しつつあることも押さえておく。例：メルカリ<br>プリントに記入させる。 | 流通活動の経済的特徴を小売業の業種・業態の変化や電子商取引の発展とかかわらせてとらえようとしている。　〈B〉 |
| まとめ<br>５分 | 振り返りシートの記入 | 本時の内容をまとめる。 | 意欲的に取り組んでいるか。 |

## 編集後記

今年度はさらなる授業改善を目標に校内研修に励むことができました。教科の垣根を越えて、授業についての意見交換がなされるようになり、生徒の学力向上のために何ができるか常に考える体制ができつつあります。校外研修の必要性を感じ、積極的に参加したいという意識が高まった年になりました。

７年目となった“ふるさと教育”はすでに授業の中に根付き、年々授業内容に工夫がみられます。１年間の集大成となるこの研修集録が、皆様の今後の教育活動に御活用いただければ幸いです。

今回の研修集録作成にあたり、原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方には改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和２年度　研修集録　第２８号

発行日　　令和３年３月３１日
発　行　　秋田県立十和田高等学校 研修担当
電話　０１８６－３５－２０６２
FAX　０１８６－３５－２２７２